

ポルフィロゲニトス考(2)

—14-15 世紀に於けるポルフィロゲニトスと専制公—

平野智洋氏（女子美術大学）

報告者は以前、ビザンツ皇帝由来の称号であるポルフィロゲニトスー「緋室生まれの皇子」(*porphyrogennitos*, πορφυρογέννητος)に関して、1261 年のパレオロゴス朝ビザンツ帝国復興との関連に於いて報告する機会を得た。本報告はその続編として、王朝が確立され、他方帝国が国難の中で小国化していくという 14-15 世紀ビザンツの歴史的過程に於いて、かつてその保有者に大きな権威を与えていたポルフィロゲニトス称号のその後の状況を検証する。

検証にあたっては、14-15 世紀に於けるポルフィロゲニトス称号保有者一覧を作成した上で、14 世紀成立の『偽コディノスの官職表』が記す専制公(*despotis*, δεσπότης)称号保有者間の序列に関する記述(I)、各種史料、特に文書史料に於けるポルフィロゲニトス称号と専制公称号保有者に関する呼称の扱い、15 世紀の歴史家ゲオルギオス・スフランヅィス(Georgios Sphrantzis, Γεώργιος Σφραντζής, 1401- 1477/78)『回顧録』が記す、ヨアニス 8 世(Ioannis VIII, Ἰωάννης Η΄, 1425-1448)の後継者問題(XXII. 7, XXV. 1-7)とコンスタンディノス 11 世(Konstantinos XI, Κωνσταντῖνος ΙΑ΄, 1449-1453)の登極過程(XXIX. 1-7)、ソマス・パレオロゴス専制公(Thomas Palaiologos, Θωμᾶς Παλαιολόγος, 1430-1460)の称号に関する記録(XXI. 5, XXIX. 6)などを主要素材として、帝位継承とポルフィロゲニトス称号、及び専制公称号との関連を軸に、ポルフィロゲニトス称号の制度的な再解釈を試み、そしてその保有者にいかなる権威と国制上の役割を与えていたのかを考察していく。